

I C T新事業創出推進会議（第6回）議事概要

1. 日時

平成26年3月31日（月）15時00分～17時00分

2. 場所

総務省11階第3特別会議室

3. 出席者

（1）構成員（敬称略）

三友座長、岩浪構成員、江田構成員、岡田構成員、久保田構成員、越塚構成員、篠原構成員、清水構成員、関構成員、高橋構成員、千葉構成員、富田構成員、野村構成員、藤原構成員、松本構成員、棕田構成員、村井構成員、森川構成員、安本構成員

（以上19名）

（2）総務省

上川総務副大臣、桜井総務審議官、鈴木官房総括審議官

武井総括審議官、吉田政策統括官、南官房審議官、渡辺官房審議官、岡崎情報流通振興課長、鈴木衛星・地域放送課長

4. 議題

- （1）第5回会合における議論
- （2）構成員からのプレゼンテーション
- （3）意見交換
- （4）その他

5. 議事録

江田構成員、高橋構成員、久保田構成員よりプレゼンテーションをいただいた後、意見交換を行った。主なやりとりは以下の通り。

【江田構成員】

- 日本には高品位な要素技術がたくさんあるので、これらを生かした利活用を加速して

いくことが重要。

○ ベンチャー企業への投資は、投資先の企業の成功が非常に大切。そのために金銭的支援だけでなく、技術開発面の支援、経営支援、マーケティング支援といった様々な支援を行っている。

○ 多くのものを幅広くトライ&エラーという形で、失敗してもいいという環境作りを国と民間で一緒にやらないと新しいとがった意見は出てきにくいのではないかな。

【高橋構成員】

○ ウェアラブルデバイスを使うことによって、ユーザーが技術を意識しないでユースケースを体験できるような時代が来ることを想像しながら物事を作っていかなければならない。

○ 複数のセンシングデータの統合解析によって、データに基づいてユーザーをいろいろな方向に誘導することも可能になる。

【久保田構成員】

○ 人材の流動性のなさがリスクをとらないことにつながっているように感じるので、人が動くことをもっと一般的にする必要があるのではないかな。

○ 放送事業者、通信事業者、メーカー、国などの8Kや映像に関わる人たちがそれぞれの役割を果たしながら連携することで、新たなライフスタイルを作り出すサービスや事業を創出することが出来るのではないかな。また、そこで終わるのではなく、ユーザーからのフィードバックが新事業の創出には必要。

【安本構成員】

○ テレビ局はたくさんのコンテンツを持っていると思うので、それをソーシャルにどう結びつけるかといったインターネット上でやれるサービスを考えたほうがいいのではないかな。

【藤原構成員】

- ビッグデータで重要なのは、データホルダーがあまりいなくて分析したい人だけがいるといった状況である。

【森川構成員】

- スタートアップや動ける人材は格好いいというイメージがあるので、それをもう少し底上げしていけばスタートアップを起こす学生は増えるのではないか。

【村井構成員】

- 新しいことに挑戦するリスクがとれる土壌は大学の研究の役割だ。

以上